



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

博物館における寄付の取り組みと 寄付者とのコミュニケーション

2022年7月

国立科学博物館

科学系博物館イノベーションセンター

マーケティング・コンテンツグループ長 濱村伸治



お話しする内容

1. 博物館の活動と財源
2. 国立科学博物館での外部資金獲得への取り組み
3. 寄付獲得とコミュニケーションの実践
4. 寄付獲得に取り組んでみて





お話しする内容

1. 博物館の活動と財源
2. 国立科学博物館での外部資金獲得への取り組み
3. 寄付獲得とコミュニケーションの実践
4. 寄付獲得に取り組んでみて





博物館の役割



展示



学習支援活動



博物館の役割

展示



学習支援



調査研究



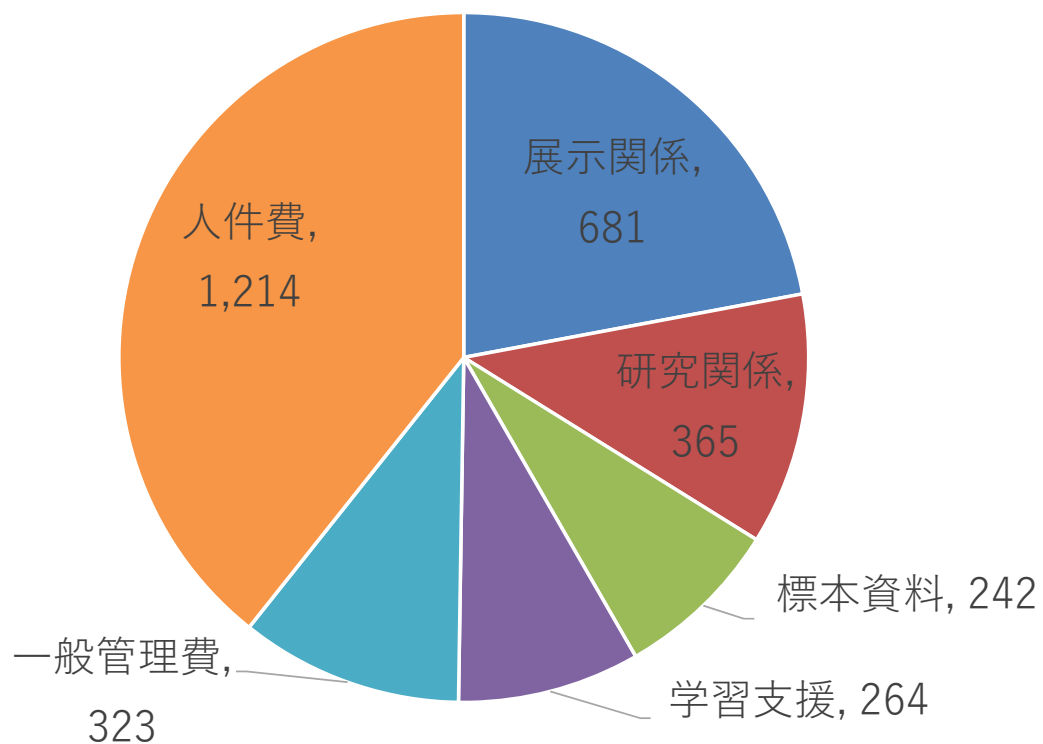
資料の
収集保管



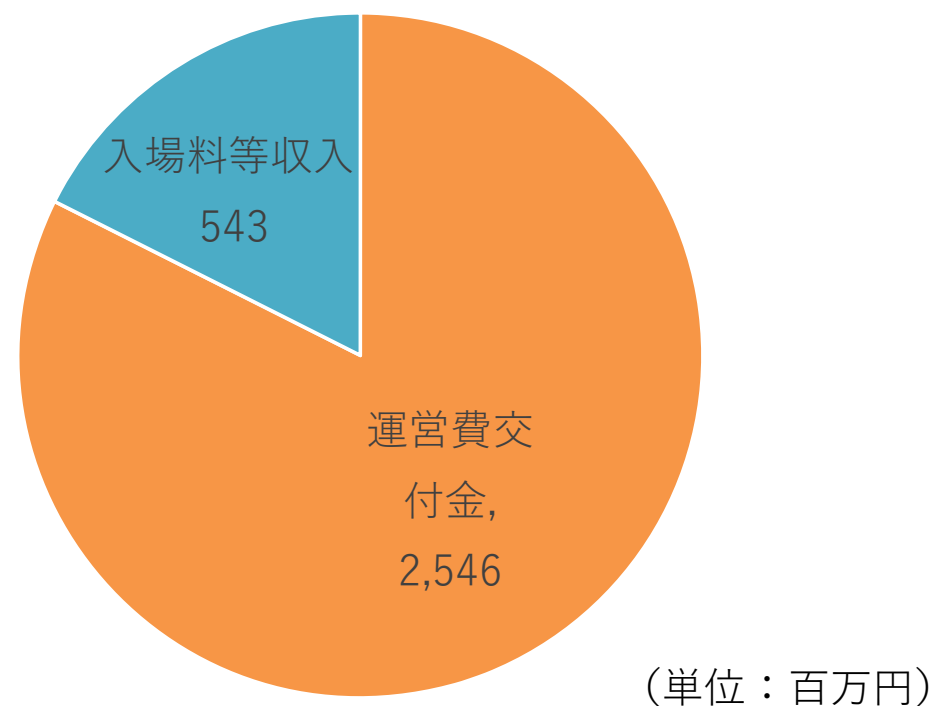


国立科学博物館の財源

令和4年度支出予算



令和4年度収入予算

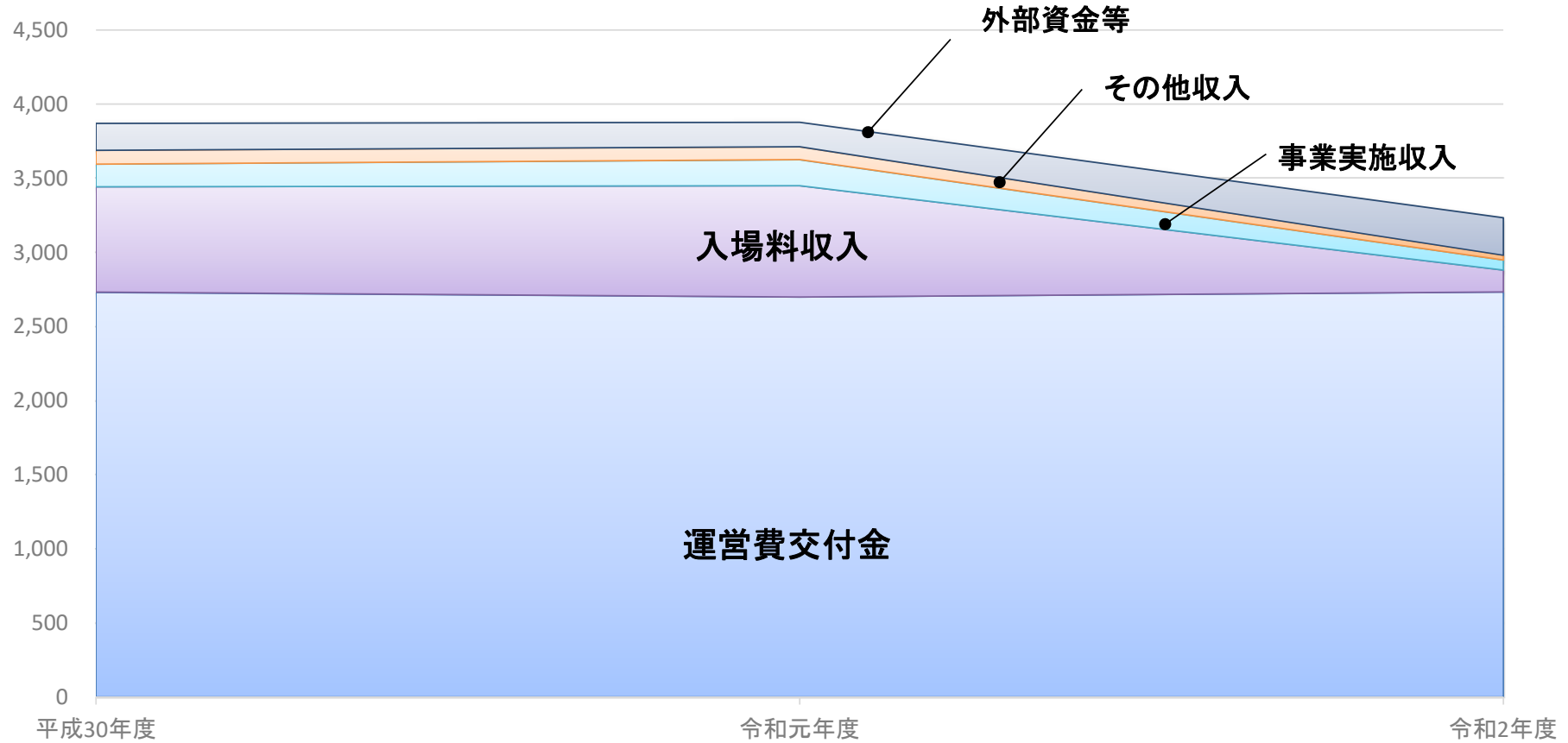


(単位：百万円)



収入内訳の推移 (決算ベース)

※施設整備費補助金等を除く





お話しする内容

1. 博物館の活動と財源
2. 国立科学博物館での外部資金獲得への取り組み
3. 寄付獲得とコミュニケーションの実践
4. 寄付獲得に取り組んでみて





「科学を文化として育む博物館」に向けて

今までの科学博物館は…

- 「科学好きな人たち」が集まる場所というイメージ

これからの科学博物館は…

- 「誰でもが」新しい発見や驚きに出会える場所に



2019.6.27発表

科博イノベーションプラン
科学系博物館イノベーションセンターの設置



「科博イノベーションプラン」

～科学を文化として育む博物館を目指して～

科博イノベーションプラン

2019.6.27発表

1. 国際的にも魅力的な博物館としての整備

- プラン1-① 魅力ある多様な展示と学習プログラムの充実
- プラン1-② インバウンド対応を意識した展示の充実
- プラン1-③ 国内外への情報発信の強化
- プラン1-④ 来館者目線に立った安全で利用しやすい環境づくり

2. 博物館活動の基盤である研究機能の強化とコレクションの充実

- プラン2-① 自然史分野と科学技術史分野の中核的研究機関としての機能強化
- プラン2-② 分野横断的研究と先進的手法の活用
- プラン2-③ 研究成果の積極的な発信
- プラン2-④ コレクションの充実と収蔵庫の整備
- プラン2-⑤ コレクションの多様な用途への活用

4. 科学系博物館等との連携強化

- プラン4-① 巡回企画展・地域館連携企画展の充実
- プラン4-② 学芸員等の研修、ネットワーク化支援

展示・学習支援活動の
バックボーン

研究成果

3. 多様な財源確保方策の実施

- プラン3-① 寄附、施設貸与(エーハ`ニュー)等の促進
- プラン3-② 専門人材の活用や人気コンテンツの製品化と普及





施設貸与による収入

施設貸与（ユニークベニュー）

- ・ ウェディング、ファッションショー等イベントの会場
- ・ 映画、ドラマ、雑誌等のロケ撮影



© KAO'RU Shibahara



Keio Fashion Creator



監修や講演、商品開発など

専門人材や標本資料の活用



・書籍の監修



・オンラインによる
有料講座



©Sangetsu

・標本資料を活用した商品開発への
協力・監修



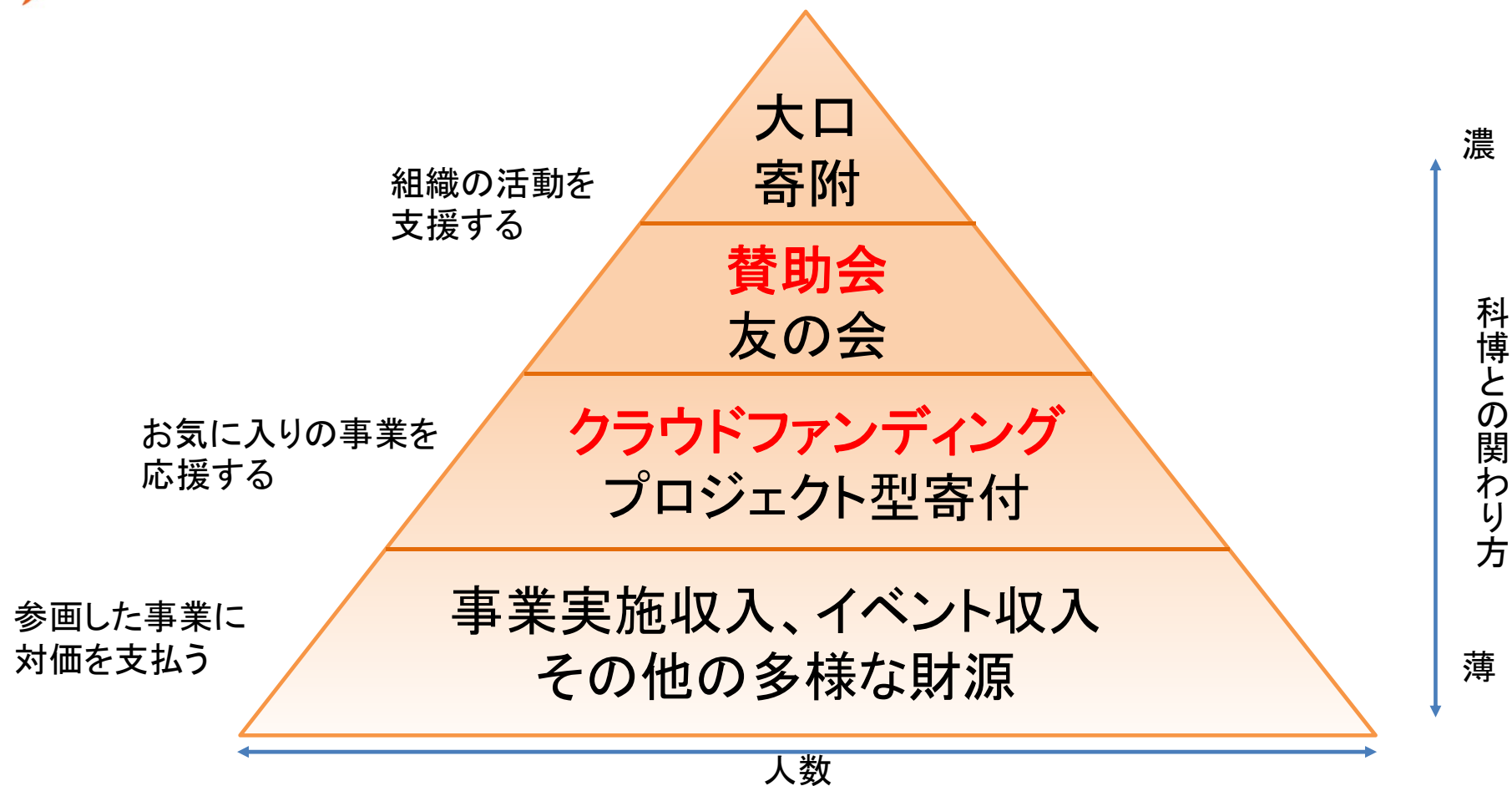
お話しする内容

1. 博物館の活動と財源
2. 国立科学博物館での外部資金獲得への取り組み
- 3. 寄付獲得とコミュニケーションの実践**
4. 寄付獲得に取り組んでみて





関わり方からマッピングしてみた





組織の活動を支える賛助会制度

- ◆ 2005年に創設
- ◆ 3つの用途に対するご支援
 - ① 青少年の自然科学へ興味・関心の向上
 - ② 地方博物館との連携
 - ③ 標本や資料の保存、修復、等





賛助会員の区分とその返礼

◆寄付金額に応じた会員区分

- ・ブロンズ会員
- ・シルバー会員
- ・ゴールド会員
- ・プラチナ会員
- ・ダイヤモンド会員



◆会員区分に応じた返礼

- ・入館料無料、特別展チケット配布
- ・特別展内覧会へのご招待
- ・館内芳名板への掲示
- ・研究者プレミアム講演会へのご招待 等





支えてくれる支援者との関係を強化

活動成果を伝える「賛助会員のつどい」や、
会員向けのイベント等を実施。昨年度はオンラインでの開催。



「賛助会員のつどい」で、特別展会場からの生中継での解説

< 賛助会員 特別企画 ② >
特別展「大英博物館 ミイラ展」の
展示室ご案内

案内者：国立科学博物館
館長



篠田 謙一

賛助会員限定の、特別展関連講演動画のオンデマンド配信



支えてくれる支援者との関係を強化

寄附法人(企業)の社会貢献事業への協力

⇒ 寄附法人との関係性の強化

★法人との連携イベントへの研究者の協力



・賛助会団体会員との共催による社会貢献活動イベント(オンラインワークショップ)



クラウドファンディング①

お気に入りの事業を応援してもらおう

調査・研究への支援



主催：国立科学博物館 共催：国立台湾史前文化博物館
協力：与那国町 沖縄県立博物館・美術館 石垣市 石垣市教育委員会 竹富町 竹富町教育委員会 東京海洋大学
後援：沖縄県 沖縄県教育委員会 日本台湾交流協会

オフィシャルサポーター



2016年4月12日 成立



海部陽介 (国立科学博物館 人類史研究グループ長)

支援総額 26,380,000円

目標金額 20,000,000円

支援者数 875人

2018年9月14日 成立



海部陽介 (国立科学博物館 人類史研究グループ長)

支援総額 33,402,000円

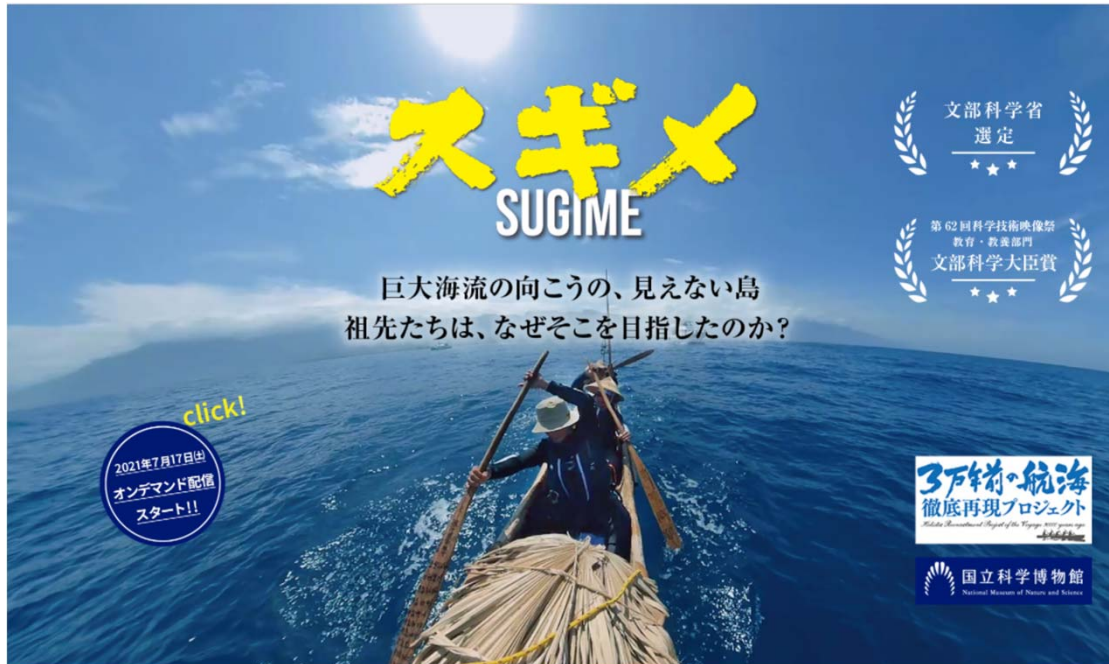
目標金額 30,000,000円

支援者数 877人



プロジェクトの成果の発信

記録映像をまとめたドキュメンタリー映画『スギメ』を制作
 ☆博物館として科学技術映像祭文部科学大臣賞を受賞
 ★Amazon プライム・ビデオ、U-NEXT、dTV等で配信中



映画や書籍と連動した
 商業施設・図書館・書店でのイベント展示





クラウドファンディング②

お気に入りの事業を応援してもらおう 資料の保存・公開

多くの方に見てほしい！
戦後日本復興の象徴
「YS-11」量産初号機
公開プロジェクト

ザ・ヒロサワ・シティ（茨城県筑西市）で機体組立中！ ※格納庫直越しに見学いただけます



「YS-11」量産初号機
公開プロジェクト

クラウドファンディング実施中

国立科学博物館は、我が国唯一の純国産民間輸送機であるYS-11の量産初号機をザ・ヒロサワ・シティ（茨城県筑西市）に移設しました。分解した機体の組立作業を開始しましたが、新型コロナウイルスの影響による臨時休館や入場者数制限のために、入館料収入が激減し、YS-11を組立てるための資金が不足しています。クラウドファンディングにより、皆様から資金を募っています。どうかご支援をよろしくお願いいたします！

クラウドファンディング
お申込みサイトはこちら

※ A-port のウェブサイトにつながります
（機体搬入による実施方法は、電話：03-6869-9001 でご案内します）

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

クラウドファンディングを行う背景

国立科学博物館は、我が国唯一の純国産民間輸送機である『YS-11 量産初号機』をこれまで20年間羽田空港で整備・保管。展示・公開するため、ザ・ヒロサワ・シティ（茨城県筑西市）に3月に移設し、6月に組立開始。

新型コロナウイルスの影響による臨時休館や入場者数制限のため、**入館料収入が激減**し、財政状況が悪化。移設のために分解した機体の**組立費用の支援を募集**



▶ クラウドファンディング (7/10~11/6)

https://a-port.asahi.com/projects/kahaku_ys-11/

目標額 3,000万円



クラウドファンディング②

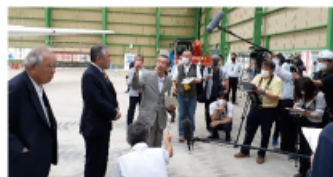
支援者を意識したイベント実施

支援者募集活動のご紹介①

- YS-11量産初号機組立作業特別見学会（茨城県筑西市）
7月10日（金）報道向け特別公開（11社が取材）
7月11日（土）～7月26日（日）一般公開（来場者3,845人）



実際のプロペラ取り付け作業を特別公開



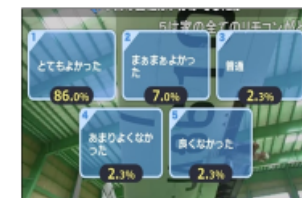
報道陣の取材を受ける
林館長・須藤筑西市長・廣澤会長



見学する園児に説明する鈴木センター長

支援者募集活動のご紹介②

- 研究者トーク第1弾！科博×HASM（ライブ）
8月30日（日）13:30～14:45 視聴者：4,573人
- 尾翼取付作業ライブ配信
9月14日（月）～9月19日（土）視聴者：65,153人
- 研究者トーク第2弾！科博×東大（ライブ）
10月10日（土）14:00～16:30 視聴者：11,043人



ライブ配信の評判（第1弾）



ライブ配信の様子（茨城県筑西市）



尾翼取付作業



支援者とのコミュニケーションを大切に

目標額 3,000万円を達成

多くの方に見てほしい！戦後日本復興の象徴「YS-11」量産初号機公開プロジェクト



※11/6の受付終了時点の結果です。

クラウドファンディングは、**達成率93%で受付終了**
終了後に寄付の申し出があり、**目標の3000万円を達成**

日本航空宇宙工業会、鈴与、サントリーHD、学研HD、ドワンゴの5社よりご支援いただきました

一般公開に向けて準備中

○ 開館準備中の科博廣澤航空博物館（仮称）に於いて、支援者限定の「YS-11 組立完成セレモニー」を開催
2021年12月11日（土）に予定より約1年遅れて開催



セレモニーに集まった支援者の皆様



支援者に感謝を伝える篠田館長

科博の持つ重要航空資料を貸し出して展示・公開する予定。



お話しする内容

1. 博物館の活動と財源
2. 国立科学博物館での外部資金獲得への取り組み
3. 寄付獲得とコミュニケーションの実践
4. 寄付獲得に取り組んでみて





2つの大型プロジェクトを経て

◆「クラウドファンディング」という活動自体が広報活動

→外部のプラットフォームを使うことによるメリットも

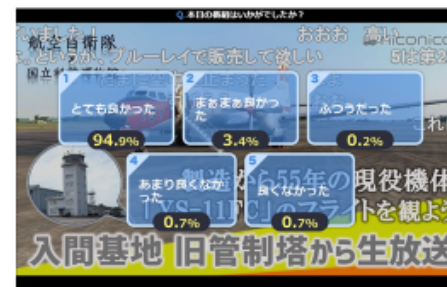
支援者募集活動のご紹介③

○「科博×空自」航空自衛隊入間基地ライブ配信
ニコニコ生放送「YS-11FCフライト生中継」

10月26日（月）12:00～16:00 視聴者：23,572人



スタジオの様子（旧管制塔）



極めて高い評価

ライブ配信の視聴者は、のべ10万人に達しました。活動を通じて、YS-11を遺し次代に伝える意義を知っていただくことが出来ました。



2つの大型プロジェクトを経て

- ◆ 大型プロジェクトは体制が不可欠
多くの場合複数のセクションにまたがって影響するため、
組織としての体制作りが重要。(通常業務への影響も。)
返礼検討の際に、実作業面を意識するなどの工夫も

プロジェクト
推進担当

広報担当

クラファン
事務担当

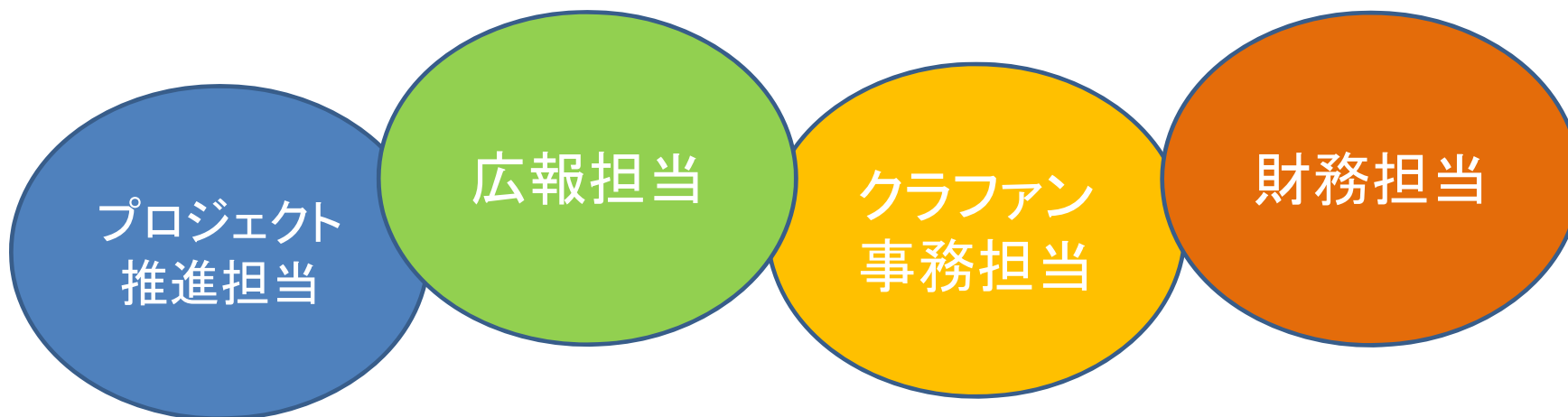
財務担当



2つの大型プロジェクトを経て

- ◆ 大型プロジェクトは体制が不可欠
多くの場合複数のセクションにまたがって影響するため、組織としての体制作りが重要。(通常業務への影響も。) 返礼検討の際に、実作業面を意識するなどの工夫も

組織全体として取り組む





2つの大型プロジェクトを経て

- ◆ 日ごろの事業の実施、発信の重要性
寄付をする先の候補に入れてもらうためには、
組織としての日ごろの活動を知ってもらう必要がある。

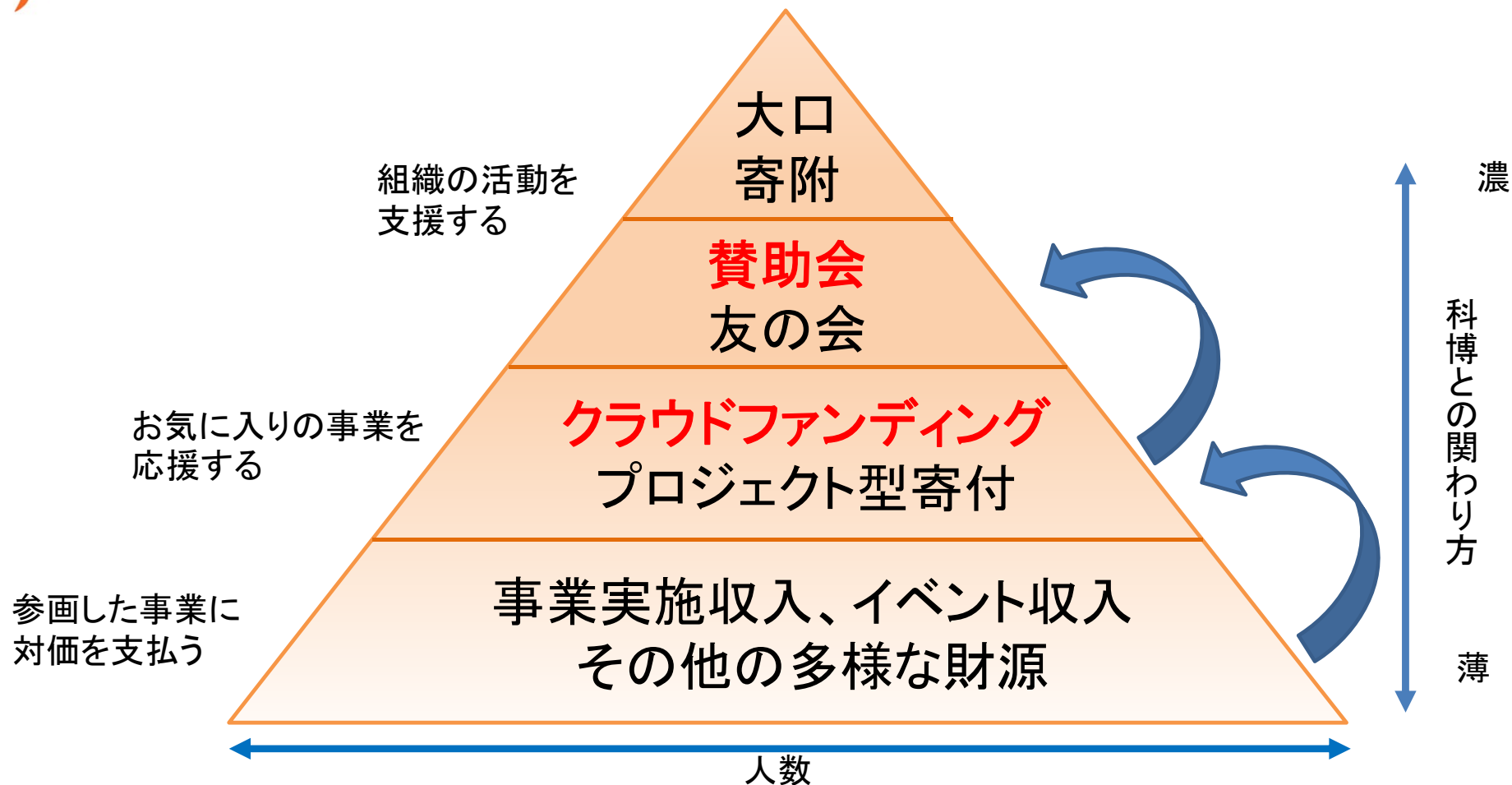


日ごろの事業の実施とその発信を充実させることこそが、
組織としての信用性、信頼性につながり、
最終的に、寄付などの支援につながるのではないか。



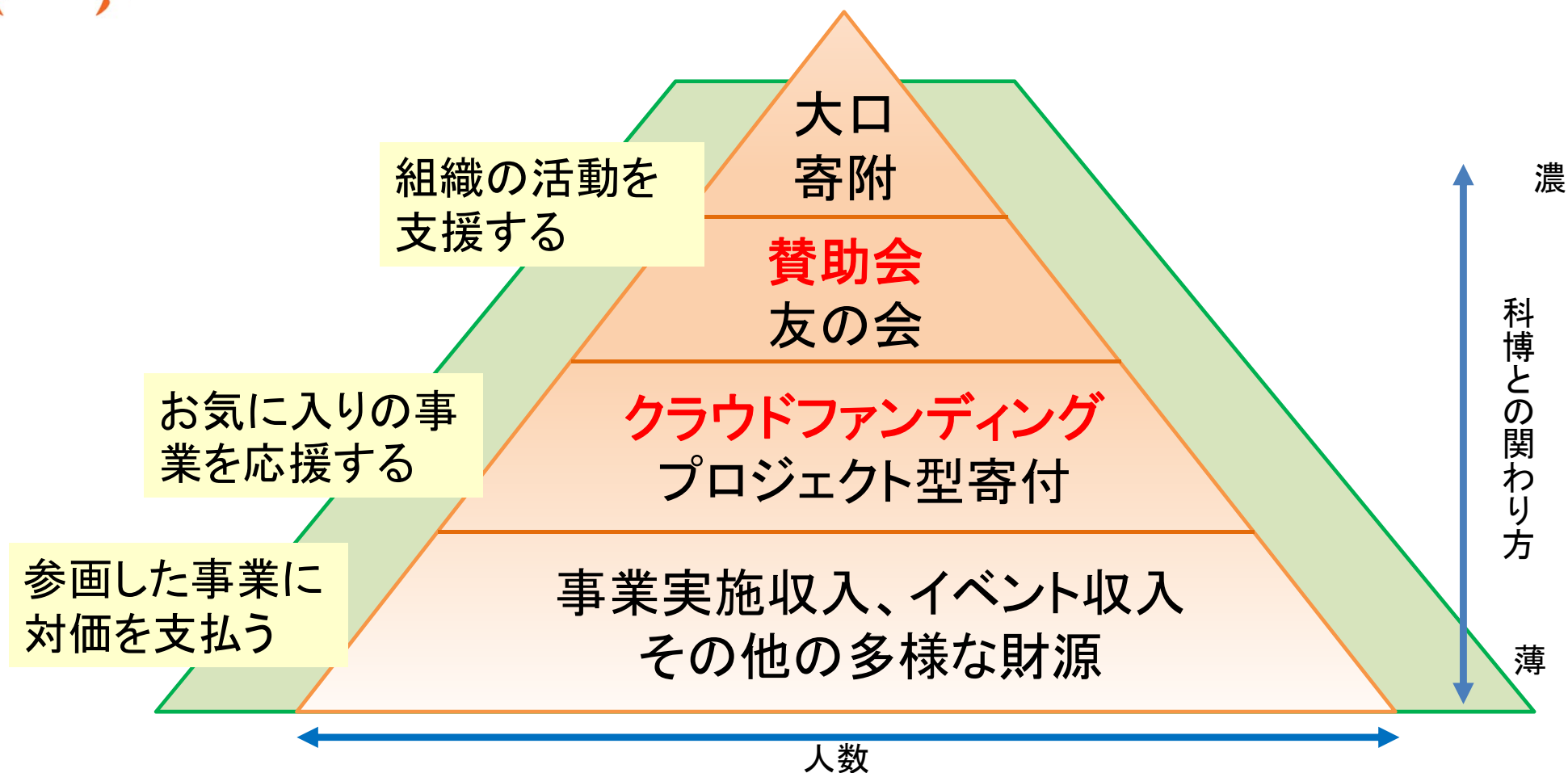


関わり方を増やしていく





支援者を増やしていく





まとめ

- ◆ファンドレイジングは新たな財源の確保の手段
- ◆同時にその活動自体が組織の活動の理解促進を図る機会
- ◆特定セクションの業務ではなく、組織として取り組む体制を
- ◆日ごろの活動を発信していくことで、寄付の候補として選んでもらえるように
- ◆寄付者との関係性を深める＋サポーターを増やす
 - 一度だけでなく継続した支援につなげる
 - そのための寄付者とのコミュニケーション